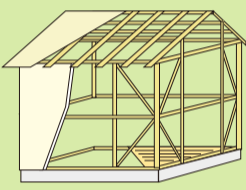
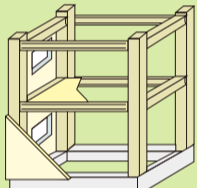
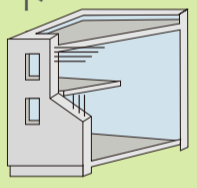


工法・構造の特徴

▶ 工法・構造は地盤やプランで決まる

次世代省エネルギー基準の改正のきっかけになったことからは「地球温暖化」です。地球的規模で起こっているこの温暖化をくい止めるには、今、何らかの手を打たないといけないという危機意識が世界各国の共通認識としてあり、わが国も協力して対策をとることが強く求められているからです。住宅分野では、家庭で消費されているエネルギーの63%が暖冷房と給湯といわれていますが、住まいの断熱性能を上げることで、これらのエネルギー消費を抑制するのがねらいです。二酸化炭素の発生原因である化石燃料を燃やして電力や他のエネルギーを得ている割合の多いわが国では、住まいのエネルギー消費を抑えることが二酸化炭素の排出削減につながるのです。

▶ 構造の特徴

構造	特徴
木造 	軽く強いところが木造の第一の特徴。木材と鉄材を比べた場合、絶対的な強度は鉄材だが、重量あたりの強度はほぼ等しい値になる。さらに、増改築での加工がしやすいのもメリット。しかし、火に弱いというデメリットも……。乾燥収縮による変形や腐食、虫食いの恐れもある。
鉄骨造 	鉄筋コンクリートよりも軽量。強度があるため、少ない量の部材で骨組みを構成することができる。よって大空間が作りやすい。粘り強く耐震性が高いのも鉄骨のよさですが、火災時の対策として、熱を遮断できる素材で鉄骨を覆う必要がある。
鉄筋コンクリート (RC)造 	耐震性・耐火性・耐久性が高く、そのうえ堅牢性もある。しかし、重量があるので、建物を支えるためのしっかりとした基礎が必要。地盤に杭を打つこともなれば基礎にもコストがかかってくる。解体も容易ではないので、増改築は困難を要する。

▶ 要望に合わせた工法

【リフォーム】

築年数が長くなればリフォームは必要です。その場合、工法によってリフォームの難易度が変わってきます。木造軸組工法や重量鉄骨造は比較的時間取りの変更が容易です。しかし、軽量鉄骨造は、耐力壁の移動ができないので制約があります。ツーバイフォー工法も柱を使用せず面で支える工法なので、やはり壁の移動が困難です。

【都市部に3階建て】

都市部では、防火地域、準防火地域の指定があるので不燃材を使用しなければなりません。鉄筋コンクリート、鉄骨造がおすすめ。耐火性のほか遮音性にも優れています。

【工期を短くするには】

お子さんの入園・入学などに合わせ早期に家を建てたいという場合、工期も考慮しなくてはなりません。最も早いのは、規格化された部材を現場でくみ上げるプレハブ工法で3~4ヶ月。ツーバイフォー工法は4ヶ月程、木造軸組工法は4~5ヶ月、鉄骨は5ヶ月以上で、鉄筋コンクリート造は6ヶ月以上かかると見ておきましょう。あくまでも目安です。

【地震・火災に強い家】

ツーバイフォー工法は、面で地震の力を受け止め、分散するという特徴があります。このほか、耐震性が高いのが鉄骨造、鉄筋コンクリート造。最近では木造軸組工法も筋交いの入れ方、金物の使い方などで丈夫な構造を作ることが可能です。